第74回　一般社団法人Future　Art　Frontier編

古今東西 郡ぐんぐん行きます！

郡市長がさまざまな現場を訪問し市民の皆さまの活動の様子などをお伝えします

仙台・東北の若手アーティストが活躍できるまちづくりに取り組む「一般社団法人Future Art Frontier（フューチャーアートフロンティア）（略称：FAF（エフエーエフ））」の皆さんにお話を伺いました。

▲地下鉄青葉通一番町駅構内には若手アーティストの多彩な作品が並んでおり、購入もできるそう

アート文化が根付く街へ

東北で活動するアーティストの支援やアート文化の普及を目的に、令和7年4月に設立されたFAF。仙台におけるアート産業の確立や若手アーティスト・クリエーターの地元定着を目指し、展覧会の企画・運営や企業との連携事業などを行っています。

「若手アーティストの力で仙台にアートを楽しむ文化を根付かせ、『アートな街・仙台』を実現したいという思いで、団体を立ち上げました」と話すのは、会長の今野裕結（ひろむ）さん。団体の運営全般に携わりながら、ご自身も画家として活動しています。

アーティストと企業のマッチングなどを手掛ける副理事長の岩本正美さんは「ITやAIとアートを融合して新しい表現を生み出しながら、国内外の方々がアートを目的に訪れる街をつくっていきたい」と話します。お二人が運営するギャラリーには、アプリを使ったり部屋の明るさを変えたりすることで見え方が変わる作品なども展示されており、アートの新たな可能性を実感しました。

「仙台は日常の中でアートを目にする機会が少ないと感じます」と言う今野さん。アートをより身近なものにするための取り組みとして、昨年12月からは交通局との共催で、地下鉄青葉通一番町駅構内に作品を展示する「地下鉄パブリックアートプロジェクト」実証実験を実施しています。通りがかりに足を止めて作品に見入る方もおり、市民が自然とアートに親しめる素晴らしい企画だと感じました。

▲アプリを使って見ると色が反転し完成する今野さんの作品。斬新な発想に驚きました

若手芸術家の活躍を後押し

若いアーティストにとって、仙台は活躍の場が限られているという課題があるそう。岩本さんは「多くのアーティストが発表の場を求め、首都圏や海外へ拠点を移しているため、仙台で活躍できる土壌を創ることが必要です」と教えてくれます。「見る側も、アートは敷居が高いと思っている方が多いと感じます」と話すのは、市内の画廊に勤める理事の服部友里子さん。「市民が気軽に作品に出会える機会を増やし、地元のアーティストが発信できる土壌づくりにつなげたい」と続けます。

「アートな街・仙台」の実現に向けて着実に活動を続ける皆さん。今野さんは「仙台のアート文化を継続的に発展させるために、次世代の育成・教育にも力を注いでいます」と話します。「文化は長い時間をかけて根付いていくものなので、10年後・20年後を見据えて活動することが大切です。若手アーティストが活躍できる場をさらに広げていきながら、長期的な目標として、仙台で大規模なアートイベントを開催することを目指しています」と今後の展望を力強く語ってくれました。

アートによるまちづくりを

アートを通じて、若い才能を育み、仙台の街に新たな魅力やにぎわいを生み出しているFAFの皆さんの取り組みに大変感銘を受けました。

本市としても、定禅寺通におけるアートイベントの実施をはじめとしたアートによるまちづくりを進め、世界に誇れるまち・仙台の実現につなげてまいります。

▲上段：左から服部さん、岩本さん。下段：左から市長、今野さん

［発行］仙台市総務局広報課　☎022・214・1150　FAX022・211・1921
som001020@city.sendai.jp　〒980-8671仙台市青葉区国分町3-7-11

VEGETABLE OIL INK　再生紙を使用しています。紙へリサイクルできますので、雑誌として分別してください。
UD FONT　見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。